

ガイドラインに沿った評価

令和4年11月 実施

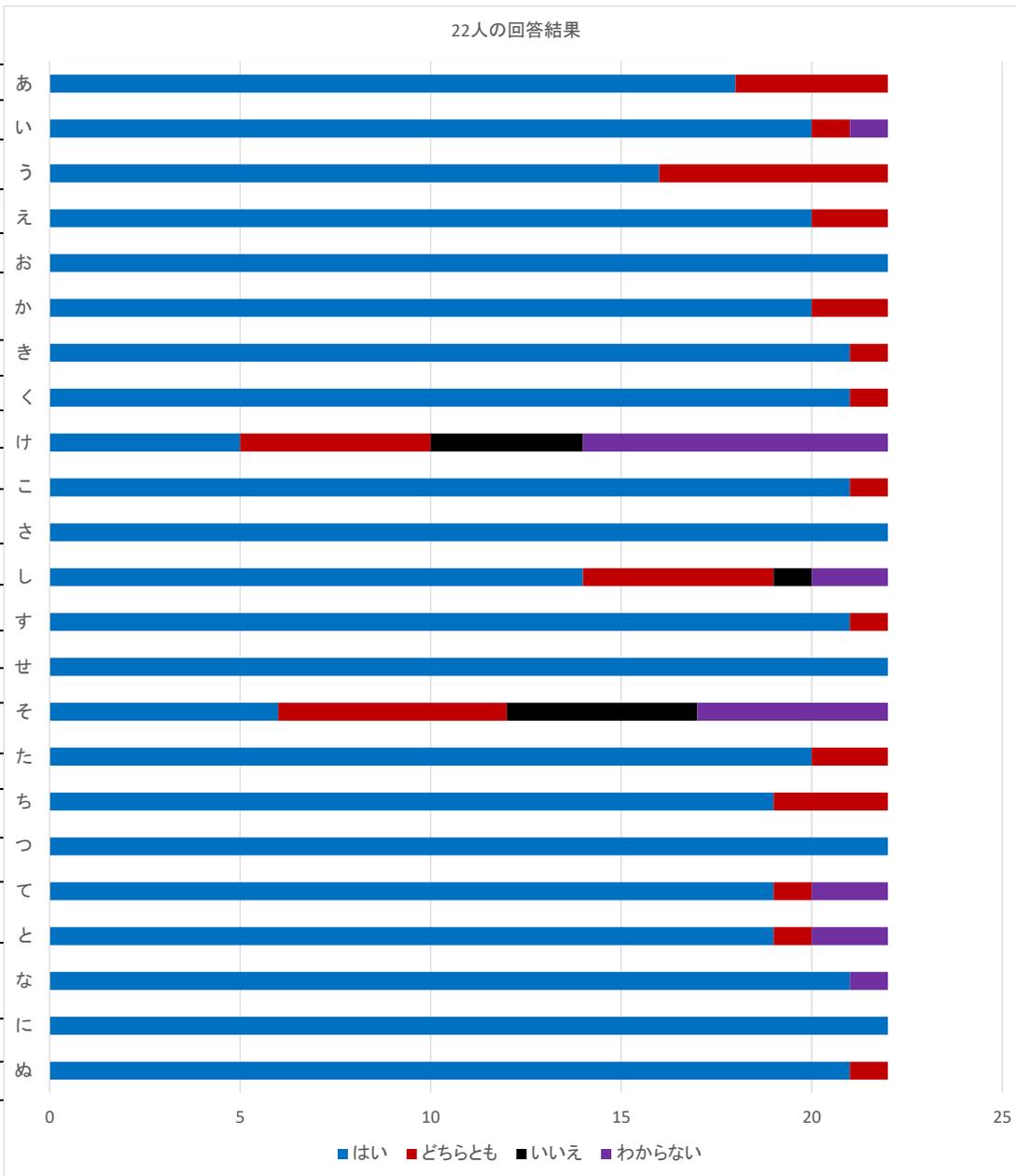
NPO 法人ガイドネット

「にじ」

保護者評価項目

22人の回答結果

環境・体制整備	あ	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか。
	い	職員の配置数や専門性は適切であるか。
	う	生活空間は、本人に分かりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか。
	え	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっているか。
適切な支援の提供	お	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されているか。
	か	個別支援計画には、放課後等ディサービスガイドラインの「提供すべき支援」「発達支援」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。
	き	個別支援計画に沿った支援が行われているか。
	く	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか。
保護者への説明等	け	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか。
	こ	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか。
	さ	ガイドラインの「放課後等ディの提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか。
	し	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか。
	す	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか。
	せ	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか。
	そ	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか
	た	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか
	ち	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか
	つ	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか
	て	個人情報の取扱いに十分注意されているか
	非常時等の対応	と
な		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか
満足度	に	子どもは通所を楽しみにしているか
	ぬ	事業所の支援に満足しているか



32世帯に配布した結果、22世帯から回答を得、69%の回答率でした。回答にご協力いただきました皆様には心よりお礼を申し上げます。

保護者評価の考察

1 環境・体制整備

・子どもたちの学年が上がり、体が大きくなってきているので、特に雨の日などは少し部屋が狭く感じるが、家の周りの庭が広いので外で遊ばせてくれたり、雨の日などドライブに連れ出してくれたりして、少しでも余裕が出るように配慮してくださっている。

長いこと懸案であったトイレの増設の希望が叶い、トイレを2か所にすることができました。また、外への飛び出しが心配であった門扉も、頑丈なものに付け替えていただき、一安心である。「トイレ、洗面所がいつもピカピカだよ」と子供が家で話してくれ、清潔にしていると感心している。職員数もたくさんの方で支援しており、安心できる。今後もバリアフリー化に向けて、より快適な居住空間になるよう努力していきたいと思えます。

2 適切な支援の提供

・支援計画は、申し訳ないくらい内容にボリュームがあって感謝しているなど、「適切な支援の提供」に関しては高い評価をいただきました。ただし、保育所や幼稚園、障害のない子との交流に関しては、「やっているか、やっていないか分からない」とか「やっていない」といった指摘が多くありました。特に意見等は記入されていなかったため、保護者の方々が交流を強く望んでいるかどうかは分かりかねるところがありましたが、夏休みに実施しているお祭りや年に一度の交流会等での交流は意義あることなどで、今後、交流を図るように努めていきたいと思っています。

3 保護者への説明等

・支援内容は、いつも丁寧に説明していただいている。子どもの状況を保護者に伝えたり、定期的に保護者に対して面談や助言等の支援が行われているかについては、こまめに連絡をしてくれたり、相談しやすい関係づくりに配慮を感じるなど感想をいただきました。また、毎月、「にじ通信」を紙面で渡してくれるので、その時

目を通すことができ、確認できて助かるのご意見もいただきました。

ただし、保護者同士の連携については「連携がなされていない」との指摘が全項目中で一番多くありました。生活年齢が異なる利用者さんが集う場であるからこそ、今後は異年齢のお子さんの保護者の方々同士、身辺処理に関する事、兄弟関係の事、進路の事などに関しての情報交換の場を設けることの必要性を感じています。相談の窓口を明確にすること、伝えられた事柄を正確に受け止めることなど今後の課題に関する指摘がありました。

4 非常時等の対応

・避難訓練は一か月に一度、定期的に行っていますが、実施しているか分からないという方もあり、毎月訓練をしている実態が保護者の方に十分に伝わっていないことは残念に思いました。また、緊急時対応マニュアル等も策定していますが、わからないと回答した方もあり、周知・説明の必要性を痛感しました。

5 満足度

・ほぼ全員の方が通所を楽しみにしているし、安心して預けられるので大満足であると回答してくださっておりました。家庭では味わえない体験ができありがたいとか、前日から「にじ」の荷物を用意して「にじ」に行くのを楽しみにしているといった回答もあり、大変うれしく思いました。

創設時の

- 1 子どもたちに楽しいひと時と友達と交流する機会を
- 2 保護者に安心して働いていただける時間を
- 3 家族の皆様にはほっと一息つける余裕の時間を

この三つの志を決して忘れることなく、今回いただいたご意見には真摯に耳を傾け、今後、改善すべき事柄は改善するように努めていきます。

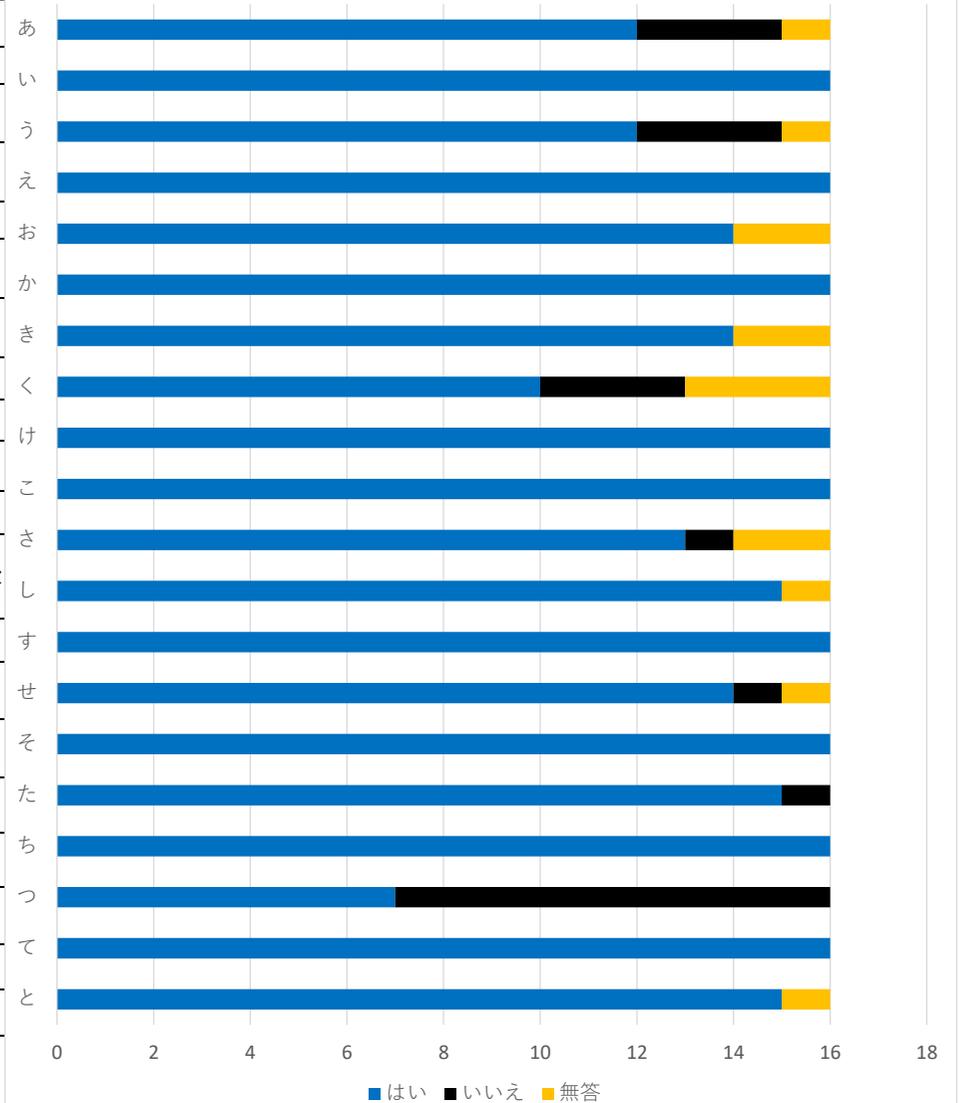
令和4年12月5日

文責 上島 浄志

事業所職員向け 評価表項目

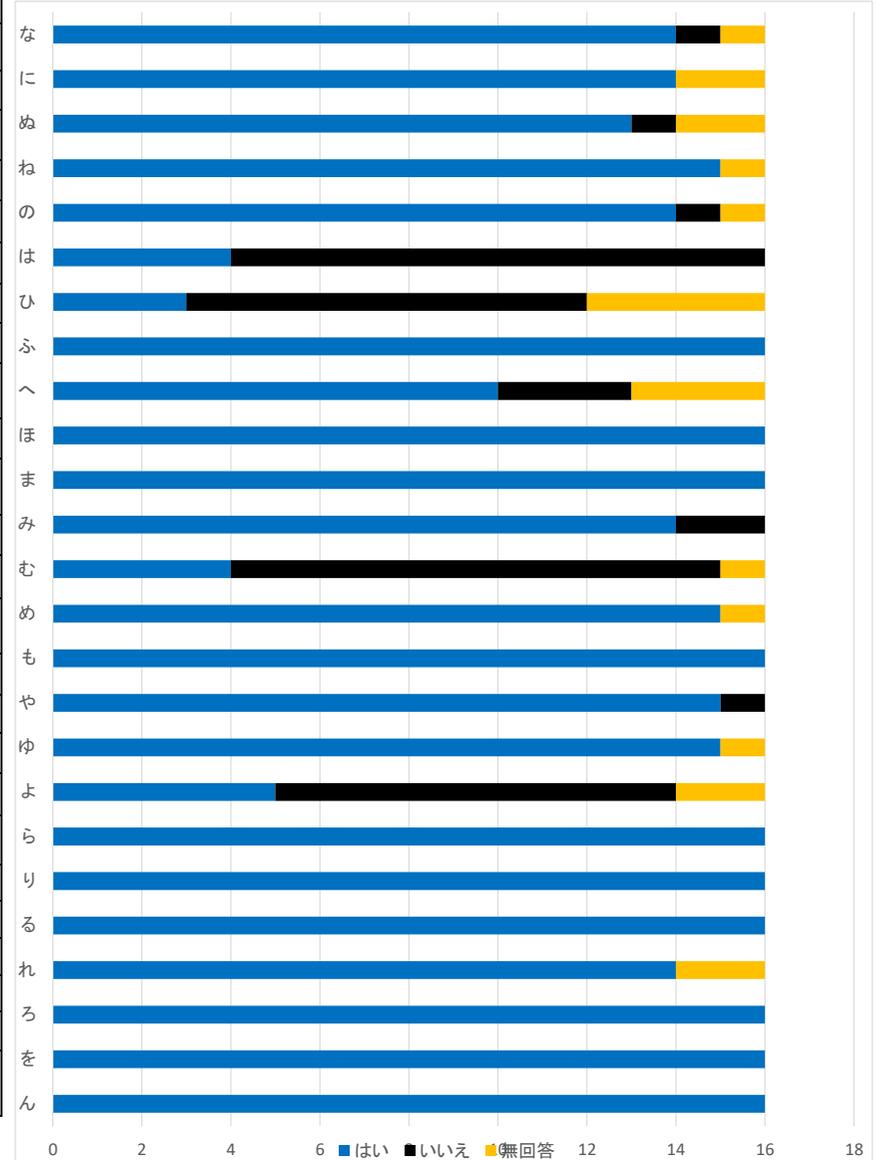
		チェック項目
環境・体制整備	あ	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか
	い	職員の配置数は適切であるか。
	う	生活空間は、本人に分かりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか。
	え	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっているか。
業務改善	お	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか
	か	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか
	き	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか
	く	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか
	け	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか
適切な支援の提供	こ	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか
	さ	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか
	し	個別支援計画には、放課後等ディサービスガイドラインの「提供すべき支援」の「発達支援」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。
	す	個別支援計画に沿った支援が行われているか。
	せ	活動プログラムの立案をチームで行っているか
	そ	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか
	た	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで個別支援計画を作成しているか
	ち	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか
	つ	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか
	て	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか
と	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断しているか	

16人の回答結果



事業所職員向け 評価表項目

チェック項目	
関係機関や保護者との連携	な 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか
	に 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか
	ぬ 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか
	ね 移行支援として、小学校や特別支援学校との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか
	の 他の放課後等ディサービス事業所等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか
	は 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか
	ひ (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか
	ふ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか
	へ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか
保護者への説明等	ほ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか
	ま ガイドラインの「放課後等デイの提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら、支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか
	み 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか
	む 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により保護者同士の連携を支援しているか
	め 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか
	も 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか
	や 個人情報の取扱いに十分注意しているか
	ゆ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか
	よ 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか
非常時等の対応	ら 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか
	り 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っているか
	る 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか
	れ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか
	ろ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか
	を 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか
	ん どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか



事業所職員には 20 人に配布し、16 人から回答を得、80%の回答率であった。ご協力に感謝したい。回答全体を見ての感想は、無回答の項目が昨年に比べて更に少なくなったということである。これは、週に 1~2 回の勤務であっても、「にじ」の日常での活動の全体を理解している結果だと思う。しかし、勤務の多少にかかわらず、「実態が分からない」と思う職員が皆無になることが望ましい。職員一人一人が折に触れて、運営の実際を理解する努力はしていかなければならない。

職員の回答に対する考察

1 環境・体制整備

・定員が 20 名となり、欠席がない時は狭いと感じるが、散歩やドライブに連れ出して、適切な人数で過ごせているのではないかと、クールダウンできる部屋や勉強できるスペースが欲しいとか、完全に仕切られた部屋が欲しいといったご意見をいただいた。また、玄関やテラスの段差は職員の介助時の負担の大きさになっているし、子どもたちにとっても不自由を強いている。事務室は入ってはいけないならば、子どもにも分かりやすい表示が必要だとのご意見もいただいた。皆で知恵を絞って少しでも改善する方法を考えたい。

2 業務改善

・子供の支援については、職員打ち合わせにより、周知徹底していい。第三者による外部評価は、年に一度の理事会の折にご意見をいただく機会があるが、もう少し機会を増やして外部評価をいただき、業務改善につなげたい、という意見をいただいた。保護者向けや職員向けの評価については、毎年実施し、公表している事実を、今年の調査では職員全員が知っているとの回答であった。また、職員の研修については、ガイドネット全体での研修に加えて、「にじ」独自に毎日の打ち合わせ時に「事例研」などを少しずつ取り入れるなどして職員の資質の向上につなげていい、との感想をいただいた。

3 適切な支援の提供

・勤務終了後に職員の打ち合わせは実施していない(回答者 9 人)が、退勤時に注意すべき事柄を見発管に伝えたり、翌日の打ち合わせ時に報告したり、ケース記録を読んでもらったりしている。勤務終了後に職員の打ち合わせは

勤務時間の関係で時間的に無理があるので、現状でいいのではないか。個別支援計画で、「家族支援」「地域支援」の具体的な支援が難しいという意見があった。確かに、家族や地域の実情をつぶさに把握していないと具体的な支援内容を掲げることは難しいが、情報を収集する努力をして、支援計画に少しでも具体化していきたい。活動プログラムは、見通しが持ちにくい子供たちにとって先が分かり安心感につながっていくので、固定化することが大切であるがマンネリ化は避けたい。折に触れて季節的行事を取り入れるなど変化があってもいいのではないかという意見をいただいた。活動プログラムの立案は、職員全員で行っていないが、アイデアがあったらその都度、児発管に提案したりして実施している。季節や子供の状況を考慮に入れて工夫していけたらよいと思う。活動プログラムが全員に周知するようにしていきたい。活動プログラムの提案が闊達になされる事業所の雰囲気でありたい。

4 関係機関や保護者との連携

- ・この項目は、職員全体がかかわるというよりも、ある特定の職員がかかわることが多いので「無回答」の職員が何人かいるのが特徴であった。障害のない子との交流は行っていないが、「にじ」の夏祭りや月見会、音楽会の折に利用者の兄弟姉妹の参加が増えていていい、という意見をいただいた。今後さらに、招待するなどの方法も考えたい。また、自立支援協議会への参加も、今後、できる限り参加をする方向で考えたい。小中学校や特別支援学校との情報交換は迎えに行った時や、支援会議の折に実施している。学校公開などの機会もあるので、職員が誰でも積極的に参加して情報を得る努力をしていきたい。保護者との連携に関しては、お迎えの時にその日の出来事や近況等を話し合い、日ごろの良好なる関係を築くことに努めている。

5 保護者への説明等

- ・保護者会は開いていないが、保護者同士の連携を図るために、保護者同士の連携・助け合いはとても大切である。行事の中に保護者を巻き込むなどして、徐々に「保護者会」へと形を整えていけたらと思う。年に一度のガイドネット全体の交流会や「にじ」の夏祭りなどの機会は連携を図るうえで絶好の機会である。また、連携は、日ごろの何気ないやり取りの積み重ねが基本であることは忘れないようにしたい。地域に開かれた事業所にするために、散歩時に地域住民への挨拶や側溝の清掃など、普段から取り組める事柄はある。災害時にも地域住民との連携は欠かせないので、夏祭りへの招待などもゆくゆくは考えていきたい。なお、個人情報に関しては改めて守秘義務がある

ことを再確認し、シュレッダー使用の徹底を図りたい。

6 非常時等の対応

- ・「非常時等の対応」の項目のうち、食物アレルギーに関しては、医師の指示書によってではなく、保護者の情報にて対応している。非常災害、服薬やてんかん発作、食物アレルギー、服薬、虐待、身体拘束等、どの各項目も生命にかかわる事柄なので、どのくらい職員が周知しているが関心をもって見たが、十分にその内容を理解しているといった回答ばかりであったので、安心できる状況であった。服薬や食物アレルギーの実態などについては、今後も、一覧票にまとめて全職員に配布し、徹底を図っていきたい。

令和4年12月5日

文責 上島 浄志

